個　人　質　問	議会事務局 処　理　欄	令和８年１１月１１日　８時３０分　受付
		質　問　順　位　第１０番

武豊町議会議長　石川　よしはる　殿

武豊町議会議員　　松本　万之

一 般 質 問 の 通 告 に つ い て

令和８年第４回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質　問　事　項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
１．南海トラフ地震に対しての今後のさらなる取り組みは	【趣旨説明】先日、１１月８日午前１時４分ごろ、愛知県では最大震度５強を観測する強い地震があり、少なくとも２０人以上がケガをされたと発表されています。 尚、気象庁の発表で今回の地震は、南海トラフ地震の想定震源域の中で発生しましたが、巨大地震を引き起こすプレート境界で起きた地震ではなくプレートの内部で起きた地震で、プレートの状態も目立った変化を示すものではないとされています。 さて南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね１００～１５０年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震になり、前回は昭和東南海地震（１９４４年）及び昭和南海地震（１９４６年)が発生してから既に８０年以上が経過して、現在では次の南海トラフ地震発生の切迫性が高い状態でもあり、いつ何時に起きてもおかしくない状況となってはいます。 国土交通省気象庁のホームページを確認いたしますと、この被害想定（令和７年３月公表）によれば、南海トラフ巨大地震がひとたび発生すると、静岡県から宮崎県にかけての一部では震度７となる可能性があるほか、それに隣接する周辺の広い地域では震度強から６弱の強い揺れになると想定されていまして、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に１０ｍを超える大津波の襲来が想定されています。 そんな中で、本年の６月２日国に引き続き愛知県での南海トラフ地震に関する被害想定が発表されまして、本町につきましても被害想定が示されています。 こちらを確認いたしますと、前回２０１４年に発表されました被害想定と比較し死者数が約５００人から約３００人へと減少されています。 死者数の減少予想はこれまでの本町が行なった取り組みの成果と考えますが、これに決して満足すること無く、更なる減少を目指していくことが重要とかと考え以下の質問をいたします。

	【質問事項】 ①被害想定をいくつか踏まえ本町での様々な防災計画では、優先順位をどのようにつけながら、迅速かつ的確に改定していくことが重要と考えるがどうでしょうか。 ②愛知県では今後さらなる被害の減少のために４点について試算された ・建物の耐震化率 ・家具等の転倒防止対策 ・感震ブレーカーの設置 ・発災後の全員が直ぐに避難開始 この点について、本町の現状と今後の対応についてどのような考えをされているか ③死者数の減少予想では、どのような取り組みをされて減少へつながったと考えているか ④特に今回の被害予想では、火災の発生が前回の約１３００棟に比べて、今回は約２０００棟に増加されているが、この増加に至った原因と今後の対策について、どのような考えをしていくのか ⑤津波から早期避難をすることが減災につながることは、東日本大震災や能登半島地震などの事例からはっきりされ、本町の津波被害が想定される地域を対象とされる避難訓練の実態はどのようになっているか ⑥社会インフラの耐震化（上水道・下水道など）の現在の進捗状況と、今後の予定はどのようになっているか ⑦１１月１日に町内一斉防災訓練が行なわれたが、冬の夜間の発災が一番大きな被害となることが想定されていて、それを踏まえた上での、今後の避難訓練等のあり方をどのように考えるか。